

アジア学国際シンポジウム開催報告3(学部長裁量費)
「社会的養護と養子縁組：世界と日本」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 白井, 千晶 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009381

アジア学国際シンポジウム開催報告3 (学部長裁量費)

社会学科 白井千晶

タイトル：「社会的養護と養子縁組 ～世界と日本 Foster Care and Adoption : Japan in the world」

日時：2015年3月8日(日) 12時15分～17時30分

場所：日本女子大学 目白キャンパス 百年館低層棟206教室

趣旨概要：

日本では現在、親が育てられない子どもを社会が代替的に育てる「社会的養護」について、施設養護よりもできるだけ家庭養護とするよう、舵が切られている。その家庭養護の選択肢は養子縁組、里親、ファミリーホームである。

養子縁組を世界的な視点で見れば、国内外の政治的・経済的状况から国境を越えた養子縁組（国際養子）に至った子どもたちは数十万人規模であり（たとえば韓国、中国、ロシア、中南米、アフリカから欧米へ、東欧から西欧へ、イギリスからオーストラリアへ）、数十年たつたいま、養子のアイデンティティ、ルーツ探しが世界的課題になっている。

一方で、グローバル化する社会の中で、国際結婚夫婦が祖国から養子を迎えるなど、国際養子縁組、渉外養子縁組は増えつつある。

子どもの福祉のための社会的養護をどのように構築すればよいのか、国際比較の視点から、また、子ども当事者の視点から考えた。

<h2>社会的養護と養子縁組 ～世界と日本</h2> <h3>Foster Care and Adoption : Japan in the world</h3> <p>日時 2015年3月8日(日) 12時15分～17時30分</p> <p>場所 日本女子大学 目白キャンパス 百年館低層棟206教室</p> <p>申込先 東京2016年オリンピック招致委員会事務局 3R山手線日仏駅 http://www.jvu.ac.jp/ra/access.html</p>	
<p>プログラム</p> <p>開場 12時</p> <p>開会 12時15分</p> <p>司会 白井千晶 (駒沢大学・准教授/社会学)</p> <p>第I部 グローバルな視点で考える</p> <p>講演「家訓からみる日本の社会的養護と養子縁組」 キャサリン・ゴールドファブ (マサチューセッツ大学・助教/カダノ人類学) (日本語訳) 12時15分～13時00分</p> <p>講演「世界から学ぶ日本の社会的養護：日本、イスラエル、イギリスの比較から」 マイケル・マーラー・キング (オクスフォード大学・准教授/イギリス/社会学) (日本語訳) 13時00分～13時45分</p> <p>第II部 子どもの視点で考える</p> <p>映画上映「はちの色のエン」13時55分～15時10分</p> <p>監督 櫻本ユウ・ロマン・ロロー 2012年フランス・ベルギー・韓国・スイス(75分)HD(16:9) ドキュメンタリーアニメーション(仏語・日本語字幕)</p>	<p>講演「韓国の里親養子縁組の歴史的変遷と養子の現状」 釜添和 (首都大学東京・助教/社会学) (日本語訳) 15時10分～15時40分</p> <p>子どもの声「Voices of You.#」 社会的養護を縁組した子どもの立場から (IFCA) 15時40分～17時00分</p> <p>第III部 総合シンポジウム 17時00分～17時30分</p> <p>キャサリン・ゴールドファブ/マイケル・マーラー・キング/釜添和 / IFCAユース/白井千晶 スライドディスカッション</p> <p>参加費：無料</p> <p>主催 駒沢大学人文社会科学部</p> <p>協力 IFCA、一般社団法人全国養子縁組団体協議会、リカガク心研究会、リカド、オアシス</p> <p>企画・コーディネート 白井千晶 (駒沢大学人文社会科学部)</p> <p>申込 http://oku.chness.com/event/index/282584/ (できるだけ上記へ、随分、場合は下記メールでも可)</p> <p>問い合わせ 白井千晶@nic.chikid@jvu.ac.jp</p>
<p>演者紹介</p> <p>キャサリン・ゴールドファブ (マサチューセッツ大学・助教/カダノ人類学) Kathryn Goldfab 2008～2010年に日本に滞在し、日本の社会的養護、養子縁組現状、不妊治療を人類学的に調査してきた。家族制・家庭制や身体経験を手がかりに、社会のメタノロジーや国家政策を批判的に分析している日本研究者。</p> <p>マイケル・マーラー・キング (オクスフォード大学・准教授/イギリス/社会学) Michael Maher King 社会的養護における施設養護割合が高い日本・イスラエルと英国の現状と社会政策を研究。市民活動として、児童養護施設の子育てを促進するスマイルキッズ・ジャパンを創設。東日本大震災時に東北被災地の子育て支援として東北の児童養護施設親縁組・支援、NGO活動を「TEDx Tokyo 2011」でプレゼンテーションし、「日本の児童養護」(明石書店)の003ページで掲載。</p> <p>釜添和 (首都大学東京・助教/社会学) KAN Uwa 20年前に来日。日本と韓国との歴史的な養育と、父系中心の文化と養育の歴史的変遷に軸をおいて研究を促進。現在の主な研究テーマは、日本と韓国との養子縁組制度を各自の社会的養護の比較研究、乳児遺棄や死産から始まる母子保護システムの構築など。</p> <p>IFCA International Foster Care Alliance (IFCA)は、アジアと日本の児童福祉をつなぐ唯一のNPO法人として、米国ワシントン州を拠点に、3つの領域(ユース、ケアギバー、プロフェッショナル)での事業を展開している。ユース部門は、児童施設や養育家庭で育つ子どもたちで、フスターケアを離れて自立した若者たちが社会的養護の当事者チームとして活動。本シンポジウムでは、日本のユースが中心となる。</p> <p>映画「はちの色のエン」(Couleur de peau : Miel) J (2012年・75分・トリカギ配給) 韓国出身の国際養子としてベトナムで成長した孤児自身の自伝的アニメーションドキュメンタリー。韓国は1960年代から70年代に20万人を超える子どもが養子として主にヨーロッパに渡った。今現在、彼らのアイデンティティ、ルーツ探し、社会的養護の社会的背景にも、社会科学的研究トピックにもなっている。アニメーションアニメーションスタイルによって長編アニメーション制作費を減らし、ユニバーサルから日本での上映を実現した。現在、自主上映での放映がある。1月に韓国本館の制作が完了し、公式サイトはhttp://hachimichijung.com/</p>	
 <p>© Mael et Hachimichi Productions - Reka Media Nobuyuki Tanaka - France 3 Cinema - 2012</p>	

プログラム：

第Ⅰ部 グローバルな視点で考える

講演「家族観からみる日本の社会的養護と養子縁組」

キャサリン・ゴールドファーブ（マックマスター大学・助教・カナダ／人類学）（日本語講演）12時15分～13時00分

講演「世界から学ぶ日本の社会的養護：日本、イスラエル、イギリスの比較から」

マイケル・メイヤ・キング（オックスフォード大学・院・イギリス／社会政策学）（日本語講演）13時00分～13時45分

第Ⅱ部 子どもの視点で考える

映画上映「はちみつ色のユン」13時55分～15時10分

監督・脚本・ユン、ローラン・ボアロー

2012年|フランス・ベルギー・韓国・スイス|75分|HD|16:9|ドキュメンタリー×アニメーション|仏語・日本語字幕

講演「韓国の国際養子縁組の歴史の変遷と養子の現状」

姜 恩和（首都大学東京・助教／社会福祉学）（日本語講演）15時10分～15時40分

子どもの声「Voices of Youth」

社会的養護を経験した子どもの立場から（IFCA）

15時40分～17時00分

第Ⅲ部 総合シンポジウム 17時00分～17時30分

キャサリン・ゴールドファーブ／マイケル・メイヤ・キング／姜 恩和／IFCAユース／白井千晶
フロアディスカッション

司会：白井千晶（静岡大学・准教授／社会学）

主催：静岡大学人文社会科学部

協力：IFCA、一般社団法人全国養子縁組団体協議会、リプロダクション研究会、トリウッド、
オフィスH

企画・コーディネート：

白井千晶（静岡大学人文社会科学部）

参加者数：約130名



演者：(所属は当時)

キャサリン・ゴールドファーブ (マックマスター大学・助教・カナダ／人類学) Kathryn Goldfarb
2008～2010年に日本に滞在し、日本の社会的養護、養子縁組家族、不妊治療を人類学的に調査してきた。家族観・家族観や身体経験を手がかりに、社会のイデオロギーや国家政策を鋭く分析している日本研究者。

マイケル・メイヤ・キング (オックスフォード大学・院・イギリス／社会政策学) Michael Maher King
社会的養護における施設養護割合が高い日本・イスラエルと英国の現状と社会政策を研究。市民活動として、児童養護施設にボランティアを派遣するスマイルキッズ・ジャパンを創設、東日本大震災時に東北キッズプロジェクトとして東北の児童養護施設を訪問・支援。NGO活動をTEDx Tokyo 2011でプレゼンテーションした。『日本の児童養護』(明石書店) のロジャー・グッドマンに師事。

姜 恩和 (首都大学東京・助教／社会福祉学) KAN, Una

20年前に来日。日本と韓国の家族の違いに興味をもち、父系中心的な家族規範の歴史的展開に軸をおいて研究を開始。

現在の主な研究テーマは、日本と韓国の養子縁組制度を含む社会的養護の比較研究、乳児遺棄や死亡を防ぐための母子保護システムの構築など。

IFCA

International Foster Care Alliance [IFCA] は、アメリカと日本の児童福祉をつなぐ唯一のNPO法人として、米国ワシントン州を拠点に、3つの領域(ユース、ケアギバー、プロフェッショナル)での事業を展開している。ユース部門は、児童施設や里親家庭で育つ子どもたちや、フォスターケアを離れて自立した若者たちが「社会的養護の当事者チーム」として活動。本シンポジウムでは、日本のユースがスピーチした。

映画「はちみつ色のユン (Couleur de peau : Miel)」(2012年・75分・トリウッド配給)

韓国出身の国際養子としてベルギー家庭で成長した監督自身の自伝的なアニメーション・ドキュメンタリー。

韓国は1960年代から70年代に20万人を超える子どもが養子として主にヨーロッパに渡航した。今現在、彼らのアイデンティティ、ルーツ探し、社会的位置が社会的課題にも、社会科学研究トピックスにもなっている。

アヌシー国際アニメーションフェスティバルにて長編アニメーション部門観客賞、ユニセフ賞を受賞。日本での上映は終了し、現在、自主上映でのみ視聴できる。1月に原作本の翻訳が刊行されたばかり。公式サイト <http://hachimitsu-jung.com/>

© Mosaique Films - Artemis Productions - Panda Media - Nadasdy Film - France 3 Cinema - 2012